

文章讀本

久川新太郎編

二

T1A1

10

(T022)



戸川新太郎編

初等小學文章讀本

明治十五年六月出版 文榮堂

初等小學文章讀本卷之二 目錄并凡例 五級用本

短句假名綴字 百四箇

短句雜漢字綴字 七十四箇

此書假名短句ヲ主トス雜漢字短句ノ如キハ其略ナリ宜ク三卷ニ於テ之ヲ詳ニスヘシ

此書假名短句前編ニ比スレハ大ニ長シ然レモ

前編單語教授充足スレハ却テ易キモノナリ

又時々前編ヲ復習セシメ遺忘ヲ防クベシ

此書雜漢字短句始メテ正体ノ假名ヲ用ユ蓋前

章ニテ草体ハ略習熟ノ域ニ至ルヲ知レハ十

初等小學文章讀本 卷之二 目錄并凡例 五級用本

リ如シ未熟ナレハ再々ヒ前ヲ温習シ熟練ヲ待テ後ニ入ル決ニテ輕忽ニ着手スル勿シ

教授大略

教法略前ニ準ス而レモ少シク習慣モツキニテ  
レハ誦讀ハ稍多クスルモ妨ケス○書取ハ一行  
ツ、教フヘシ數行一時ニ教ユベカラス○初メハ日  
ニ一二行終リハ二三行ニ及フヘシ○前編ハ只  
綴字ノミヲ要ス此級ハ稍講解ニ及ブヘシ問答  
等ヲ成シ徐々自奮クヲ起サシムベシ○正体假名  
ヲ充分熟セシムルニ要ス漢字モ亦然リ

初等小學文章讀本卷之二

浪花 戸川新太郎編

短句假名綴字第二

○果類

もとはくだものなり、  
もとはあぢあまし、  
くりはくだものるいなり、  
くりはりとかはにいがあり、

なしはあまきくだものなり、  
なしははたけにつくるものなり、  
かきはドゆくすればあまし、  
かきはくだものにて、たあり、  
りんどはろのあぢびなり、  
みか人はあまくすきあぢなり、  
みか人はふゆにドゆくす、  
ゆずはあぢはひすきものなり、  
ざくろはこつぶたほし、

ざくろはあぢすきものなり、  
ぶだうはつるになるものなり、  
ぶだうはむらさきにドゆくす、  
びははなつにドゆくすものなり、  
びははすぢなりになるものなり、

○穀類

いねはこくもつなり、  
いねはたにてつくるものなり、  
むぎはこくもつのであるなり、

むぎははたけにつくるなり、  
まめはこくもつにて、さやあり、  
まめははたけにできるなり、  
あははきいろなるこくもつなり、  
あははしよくようと、なすべし、  
きびはこくもつにて、いろあかし、  
きびはあはつぶより、たほきなり、  
○菜類  
なすびはむらさきいろなり、

なすびはにて、しよくようとす、  
さききはつるくさなり、  
さききはほりながきさやなり、  
だいこ人はねしるくながし、  
だいこ人はしきともにあり、  
かぶらはねまるきものなり、  
かぶらはふゆたほくしよくす、  
にんじんはいろあかきものなり、  
にんじんはにて、しよくようとす、

詩、世、言、卷  
一やうかはあぢからきものなり  
いものはたけにつくるものなり  
いものはかいらをにて、よくす  
ごばうはほりながきものなり  
ごばうはねを、よくようどす  
ねぶかはね、ろくさきあを、  
ねぶかはふゆもつともよし  
れんこ人はどろなかに、よくす  
れんこ人ははすのねなり、

初小學文章讀本 卷三  
たけのこは、ねぶに、よくす  
たけのこは、にて、よくようどす  
きのこは、あきさか人に、いず  
きのこは、ねほく、やまに、よくす  
きうりは、つるに、なるものなり  
きうりは、ねほく、なまで、よくす  
かぼちやは、にて、よくようどす  
かぼちやは、つるものなり  
すぬくは、なまにて、よくす

すゐくはは、なかあかきいろなり、  
まくはは、ひやしてよくす、  
まくはは、あまきあぢなり、

○器物

かまどは、なづかまをかける、  
かまどは、にたきするものなり、  
かまは、てつあかぢねにてつくる、  
かまは、めしをかしくものなり、  
ちやがまは、ちやをわかすもの

てつび人は、なづをみてつくる、  
てつび人は、ゆをあかすぐなり、  
どび人は、つちをやきてつくる、  
どび人は、ゆまたはちやをあかす、  
なづは、てつやからかねをつくる、  
なづは、よくもつをにるぐなり、  
たるは、きにてつくるものなり、  
たるは、さけすなどをいる、  
ますは、きにてしかくにつくる、

ますは、ものを、は、か、る、う、つ、は、な、り  
ひ、ば、ち、は、ひ、を、い、る、も、の、な、り、  
ひ、ば、ち、は、か、ね、や、き、に、て、つ、く、る、  
ひ、ば、し、は、ひ、を、は、さ、む、に、も、ち、ゆ、  
ぜ、ん、は、き、に、て、つ、く、る、も、の、な、り、  
ぜ、ん、は、し、よ、く、も、つ、の、だ、い、な、り、  
わ、ん、は、き、に、て、つ、く、る、な、り、  
わ、ん、は、し、よ、く、も、つ、を、も、る、も、の、  
ち、や、わ、ん、は、わ、ち、を、や、ま、て、つ、く、る、

ち、や、わ、ん、は、ち、や、ま、た、め、し、を、い、る、  
さ、ら、は、し、よ、く、も、つ、を、も、る、も、の、  
さ、ら、は、ひ、ら、た、き、う、つ、は、な、り、  
は、ち、は、ふ、か、き、う、つ、は、な、り、  
は、ち、は、い、ん、し、よ、く、の、も、の、を、い、る、  
と、く、り、は、さ、け、す、な、ど、を、い、る、  
と、く、り、は、つ、ち、を、や、ま、て、つ、く、る、  
こ、つ、ぶ、は、び、い、ご、ろ、に、て、つ、く、る、  
こ、つ、ぶ、は、さ、け、の、む、う、つ、は、な、り、



さかづきはまたつちでつくる  
さかづきはさけをのむぐなり  
つぼはたうきまたすがでつくる  
つぼはちやくわしなどをい  
はうてうはしよくもつをさる  
はこはきにてつくるものなり  
はこはものをいるうつはなり  
ひしやくはひのきにてつくる  
ひしやくはさけなどをくむもの

てたけはてのあるたけなり  
てたけはみづをいるものなり  
たけはきにてつくるものなり  
たけはみづをいれこめをあらふ  
かごはたけをあみてつくる  
かごはしよぶつをいるもの  
つるべはきにてつくるものなり  
つるべはいごみづをくみあぐる

○虫類

せみは、さちうより、さうす、  
 せみは、よくな、むしなり、  
 さんぼうは、するちうに、さうす、  
 さんぼうは、あきのくれに、たほし、  
 はちは、しりには、りあるものなり、  
 はちは、よくすをつくるものなり、  
 てうは、はるに、たほく、さぶなり、  
 てうは、よくは、なに、たはむるなり、  
 くもは、をつたほく、いつるなり、

くもは、いとを、いた、すをつくる、  
 へびは、ぼうな、かくう、あることあり、  
 へびは、かへるを、のむものなり、  
 むかでは、あり、たほき、むしなり、  
 かへるは、いけぬ、まに、さうす、  
 かへるは、あめに、たほく、なかり、  
 かには、よこにある、くものなり、  
 かには、さうす、ともなるなり、  
 かめは、かうあるものなり、

かめはすゐりくともにあうぶ

○草木

まつはふゆがれせぬきなり  
まつははあをくしてほり  
たけはなかとをりてふあり  
たけはせいちやうとをにほり  
うめははあめさきがけなり  
うめははなまよくがほりより  
つばきははるはなをひらく

つばきはあかいろいろあり  
やまぶきはきいろなるはななり  
やまぶきはみなまものなり  
さくらはうすべにのはななり  
さくらははるひらくものなり  
ぼたんはなつひらくものなり  
ぼたんははなのわうなり  
かきつばたはいけにようず  
かきつばたはむらさきいろなり

ゆりはなつものころはなひらく  
ゆりはうつくしきはななり  
やなぎはすゐへんにたほし  
やなぎはほだながくたるなり  
まきやうはむらさきのはななり  
まきやうはあきにさくものなり  
はきはくはんぼくなり  
はきはにはのかきねにひらく  
まきはあきめすへにはなひらく

まきはまきあかしくあり  
なつてんはうへものるいなり  
なつてんはみあかくむるなり  
すゐせんはふゆひらくものなり  
すゐせんはにほひことにまよし  
○鳥類  
つるはくびながきとりなり  
つるはみはしらくをはくろト  
がんはあききたりはるかへる

鳥類  
つるはくびながきとりなり  
つるはみはしらくをはくろト  
がんはあききたりはるかへる

かんはつらなりどぶものなり  
たかははげーきどりなり  
たかはよくどりをとるものなり  
とびはたかににてたほきー  
とびはせいてんにまふものなり  
からすはあさいでくれにかへる  
からすはいろくろきどりなり  
にはどりはときつくるとりなり  
にはどりはトんかにかふもの

はとはよくひとになつくもの  
はとはたほくトんかにかふなり  
すどめはことりにてのきにすむ  
すどめはこどもつをこのむなり  
つばめははるきたりあきかへる  
つばめはをふたつにわかれたり  
うぐひすははるめはトめになく  
うぐひすはきよくさへずるなり

○獸類

うまは、けものにて、たてがみあり、  
うまは、ひとをのせて、かけるなり、  
うしは、つのある、けだものなり、  
うしは、たをたがやすものなり、  
ねこは、ちいさき、けものなり、  
ねこは、よく、ねづみをとるもの、  
さるは、かたち、ひとのごとく、  
さるは、かをと、りどあか、  
うさぎは、みよな、がきものなり、

うさぎは、たどなり、きものなり、  
くまは、あなに、すむ、けものなり、  
くまは、ちから、つよきものなり、  
しかば、うまに、にて、ちいさく、  
しかば、をに、つのある、めには、な、  
いのし、は、まうじうなり、  
いのし、は、やまに、すむものなり、  
たぬきは、あな、または、みぎに、すむ、  
たぬきは、いろくろきものなり、

まつねはちやいろのけものなり

○魚類

たいはうみうをのだいいちなり

たいはいるあかきものなり

こひはかはうをのだいいちなり

こひはいるくろきものなり

ふちはいけかはなごにりよす

きんぎよばうつくしきうをなり

きんぎよはせ人するにかふもの

うなぎはかばやきにいてくらふ

短句雜漢字綴字第一

○人身

耳ハ聞クモノ 耳ハ側ニアリ

目ハ見ルモノ 目ハ二ツアリ

鼻ハ嗅グモノ 鼻ハ孔ニツアリ

口ハ言フモノ 口ハ食フモノ

舌ハ味ヲシル 齒ハ物ヲカム

手ハ二本アリ 手ハ物ヲモツ

指ハ五本アリ 指ハ摘ムモノ  
爪ハ搔クモノ 爪ハ指先ニアリ  
足ハ二本アリ 足ハ行クモノ

○文具

本ハ讀ムモノ 本ハ綴テアリ  
筆ハ書クモノ 筆ハ細ク長シ  
紙ハ薄ク平シ 紙ハ白キ色  
墨ハ黒キ色 墨ハ磨リテ用ス  
硯ハ石ニ作ル 硯ハ重キ物ナリ

机ハ四脚アリ 机ハ木ニテ作ル  
草紙ハ手習ニ用フ

手本ハ字ガ書テアリ

石盤ハ石ノ板ナリ

石筆ハ石ノ筆ナリ

椅子ハ腰ヲ掛ルモノ

椅子ハ木ニテ作ル

○衣類

着物ハ身ニ着ルモノ



羽織ハ上ニ被ルモノ  
 袴ハ下ニ着クルモノ  
 單物ハ夏着ルモノ  
 浴衣ハ浴後ニ着ルモノ  
 襦袢ハ肌ニ着ルモノ  
 袷ハ衣ヲ合セシモノ  
 綿入ハ衣ニ綿ヲ入レシモノ  
 綿入ハ寒ヲ防グモノ  
 蒲團ハ被テ卧ルモノ

蚊帳ハ蚊ヲ防グモノ  
 帽子ハ頭ニ冒ルモノ  
 手袋ハ手ニ箱ルモノ  
 足袋ハ足ニハクモノ  
 手拭ハ手ヲ拭クモノ  
 帶ハ腰ヲマトフモノ  
 雜具  
 簞笥ハ着物ヲ入ルモノ  
 簞笥ハ抽出シアリ

長持ハ蒲團ナドヲ入ル  
 兩掛ハ旅行ニ持ツ  
 鏡ハ姿ヲミル  
 櫛ハ髮ヲスク  
 剪刀ハ物ヲ剪リ  
 小刀ハ物ヲ削ル  
 琴ハ鳴物ナリ  
 太鼓ハ打鳴ス物  
 行燈ハ火ヲ點ス  
 提燈ハ提行ク物  
 煙管ハ煙草ヲノムモノ  
 煙草盆ハ火ヲ入ルモノ  
 團扇ハ風ヲ起スモノ

時計ハ時ヲ計ルモノ  
 磁石ハ方ヲ知ルモノ  
 傘ハ雨天ニサスモノ  
 笠ハ頭ニ戴クモノ  
 下駄ハ足ニ履クモノ  
 雪踏ハ日和ニハクモノ  
 靴ハ皮ニテ作ルナリ

初等小學文章讀本卷之二畢

明治十五年五月十八日

版權免許  
開版發行

編輯人

大阪北區組  
町一貳番地

大阪府上城

戸川新太郎

出版人

大阪東區南交寶  
寺町四丁目八番地

大阪府平民

前川善兵衛

### 三府發賣書肆

東京	山手市兵衛	栗佐多木惣四郎	大阪	柳原喜兵衛	
東京	荻野實兵衛	栗越上勘兵衛	大阪	吉岡平助	
東京	須原鐵二	大阪	松村九兵衛	大阪	前川宗七
東京	吉川半七	大阪	岡田茂兵衛	大阪	中尾新助